

2021 年度第 2 回八大学工学部長会議 議事録（案）

日 時：2021 年 9 月 17 日（金）9:57～11:35

場 所：オンライン

出席者：（北大）瀬戸口剛工学部長、（東北大）湯上浩雄工学部長、（東大）染谷隆夫工学部長、（東工大）植松友彦工学部長、（名大）宮崎誠一工学部長、（京大）榎木哲夫工学部長、（阪大）馬場口登工学部長、（阪大）和田成生基礎工学部長、（九大）園田佳巨工学部長

陪席者：（北大・工学系）佐々木博之事務部長、松橋和哉総務課長（東北大・工学部工学研究科）阿部昭事務部長、木皿卓郎総務課長、南光二総務課長補佐、（東大・工学系情報理工学系）櫻井明事務部長、星勝信総務課長、（東工大・工学院）臼井秀明業務推進課長、（名大・工学部工学研究科）市川真康事務部長、松原聖子総務課長、都築照教務課長、（京大・工学研究科）梶村正治事務部長、野田航多総務課長、幣真由美教務課長、（阪大・工学研究科）池本忠雄事務部長、服部圭一総務課長、脇坂道久教務課長、（阪大・基礎工学研究科）多田浩基事務長、（九大・工学部等）住田憲紀事務部長、山下和成総務課長

事務局：横野泰之事務局長、石原直アドバイザー、安尾千恵子事務局員

議 題

1. 2021 年度第 1 回八大学工学部長会議議事録確認
2. 2021 年度第 1 回運営委員会
3. 博士フォーラム（第 1 分科会）
4. 就活問題（第 2 分科会）
5. メッセージ発信のためのデータ収集（第 3 分科会）
6. ジョブ型インターンシップ
7. EAJ からの提言
8. NEDO との交流会
9. その他

配付資料

資料 2021 年度第 2 回八大学工学部長会議出席者

資料 2021-2-00 2021 年度第 2 回八大学工学部長会議議題表

資料 2021-2-01 2021 年度第 1 回八大学工学部長会議議事録（案）

資料 2021-2-02 2021 年度第 1 回運営委員会議事録（案）

資料 2021-2-03 2021 年度博士フォーラム実施計画

資料 2021-2-04 2021 年度就活問題への取り組みについて（案）

- 資料 2021-2-05 学生の流れの現状とキャリアパスの調査（案）
資料 2021-2-06 ジョブ型研究インターンシップに関する意見（まとめ）
資料 2021-2-07 EAJ 報告書_2020-04
資料 2021-2-08 NEDO-八大学工学系連合会交流会

開会の辞

植松会長より、2021 年度第 2 回八大学工学部長会議の開会宣言があった。

会議日程及び資料

事務局より、本日の会議日程及び配付資料について説明があった。

議事要旨

1. 2021 年度第 1 回八大学工学部長会議議事録確認

植松会長より、資料 2021-2-01 に基づき 2021 年 4 月 23 日にオンライン開催した第 1 回八大学工学部長会議の議事録確認が行われた。

2. 2021 年度第 1 回運営委員会

植松会長より、資料 2021-2-02 に基づき 2021 年 6 月 21 日に 2021 年度第 1 回運営委員会をオンライン開催し、各分科会の活動について紹介されたことが報告された。

3. 博士フォーラム（第 1 分科会）

幹事校の北海道大学瀬戸口大学院工学研究院長より、資料 2021-2-03 に基づき今年度の博士フォーラムについて、日程、開催形式、企画内容等の説明があり、各大学に対して参加要請があった。

4. 就活問題（第 2 分科会）

事務局より、資料 2021-2-04 に基づき就活問題への取組及びアンケート結果について説明があり、以下のとおり意見交換が行われた。

- ・アフターコロナに向けた見直し・修正を行い、アンケートを実施する。
- ・企業ヒアリング、インターンシップに関する検討を継続して実施する。
- ・分野別に集計できると有意なデータになるので、是非工夫して実施していただきたい。

5. メッセージ発信のためのデータ収集（第 3 分科会）

事務局より、資料 2021-2-05 に基づき八大学のメッセージ発信に向けたデータ収集の必要性の説明とそれに対する協力依頼が行われた。

これらを受けて、以下のとおり意見交換が行われた。

- ・女子学生の割合の傾向を把握するにあたり、博士から入ってくる女子留学生など、外からの増加要因の数を把握する必要がある。
- ・保護者向けの説明努力は継続しているが、その効果と関係性は分からない。現状では、博士の魅力を伝えることよりも、感染対策やオンライン講義に関する説明のニーズが高く、それらの状況を正確に伝えることになっている。今後も継続して博士の魅力をPRすることが大事。
- ・博士3年を超えて経済支援がなくなると、進学を躊躇することにつながりかねない。国に対して多様性を求めていく上で、統計データをまとめることは重要である。決して優秀でないが故に博士3年を超えるという訳ではないことについても説明が必要。
- ・女子の方が活躍の場を求めることに積極的で、転職してステップアップする率が高い傾向にある。男女別のキャリアパスを追跡調査したい。
- ・保護者から質問されることもあるが、退学する理由を把握できると良い。最近ではコロナの影響による修学意欲の低減があるが、逆に起業するためというポジティブなものもあるため、その中身を正確に把握することは重要。
- ・傾向を捉えつつ、優先順位を設けて取り組んでいきたい。

6. ジョブ型インターンシップ

事務局より、資料 2021-2-06 に基づきジョブ型研究インターンシップの状況について説明があり、各大学に対して情報提供依頼があった。

これらを受けて、以下のとおり意見交換が行われた。

- ・就職マッチングの毛色が出てきていることが気になる。単位を与えるのであれば大学も関与する訳で、マッチングプロセスのところに大学も情報共有できる。9月の説明会でも意見が多数出ており、大学が関与するよう改善が為されている。
- ・途中経過ではあるが、テーマの提示が少ない。
- ・共同研究型は不透明なところが多いが、パイロットケースとしてより明確になると良い。卓越研究員の共同研究型との関係をどのように位置付けるか。
- ・参加しないことで就職に不利になるなど不利益を被らないようにする必要がある。
- ・アカデミアに進んで研究を極める学生の育成についても考える必要がある。
- ・ジョブ型インターンシップは、たくさんあるインターンシップのうちの一つ、という説明に留意して進める必要がある。
- ・今年度は様子見し、来年度から本格的に取り組む大学が多い。

7. EAJ からの提言

事務局より、資料 2021-2-07 に基づき EAJ からの提言の概要及びその経緯について説明があり、以下のとおり意見交換が行われた。

- ・人材育成バックキャスト、この分野を鍛える必要がある。八大学が持ち込んだことをきつ

かけに EAJ からの提言を作った。英文版で海外にも発信できる。

- ・文理融合人材の育成については、大きなテーマになっていた。
- ・学部で基盤を、修士で研究を、博士でガバナンスを、というように、高等教育のモデルとしてどういう教育をしていくか、役割は色々と出てくる。

8. NEDO との交流会

事務局より、資料 2021-2-08 に基づき NEDO との交流会の開催予定について案内があり、当日まで申込みを受け付ける旨の説明があった。

9. その他

植松会長より、博士の学生支援について説明があり、以下のとおり意見交換が行われた。

- ・博士の学生支援が乱立しており、これをもらおうとこれがもらえないという状況。どれに申し込んで良いか分からず混乱しており、説明が必要な状況。
- ・特別研究員への申込意欲が下がってはいけない。ほかの経済支援との棲み分けが必要で、制度設計に苦しんでいる。
- ・先に手を挙げた人が不利益を被ったり、大学側が補填しないとインセンティブが発生しないケースなど、バランスを取る必要に迫られており、文科省で調整が必要。
- ・教育プログラムは、場当たりに新しいものが出てきている印象で、どこが悪いかを考えた上でどのように維持するかを考える必要。
- ・SPRING は運用が難しい。卓越大学院の経済支援の魅力がなくなっている。
- ・後から出した方が有利となると、正しい評価が為されない状況になる。
- ・経済支援はかなり充実してきているが、分野によっては博士課程の充足率が未だ苦しい状況にある。プログラムがあっても自前で補助をしても、根本的に考えるべきところがある。博士出たからの不安の解消や良いロールモデルの確立など、プログラムを整えた上で、根本的に考えるべきところがある。
- ・博士の大規模な経済支援は、これまで要望してきたことであって、それが実現している。これからは、そのアウトプットとしてどのような成果が出たか求められる。異分野融合で博士の研究力向上を図っていく、人材を育てることを考えていく、フェローシップの後に何らかの役職で雇用していく、などそれらを支援していくことが八大学の役割。

事務局より、達成度調査に使用していたサーバについて、セキュリティ対策のための OS バージョンアップに伴い、アンケートシステムが稼働しなくなった旨の説明があった。

事務局より、パンフレットが完成し、紙のほか Web でも見ることができる旨の説明があった。

九州大学園田大学院工学研究院長より、コロナの影響により私費留学生在が渡航できない状況が続いていることから、外務省への交渉について、4部局で文科省に対して要望書を出す予定である旨の説明があった。加えて、各大学においても同じ動きをしてほしい旨の依頼があった。

事務局より、午後の会議日程について説明があった。

植松会長より、以上をもって、2021年度第2回八大学工学部長会議を閉会することの宣言があった。

以上